



「ひらほく新聞」で検索！
★ホームページ・ひらほくランド★
http://www.hirahoku.com/
☆バックナンバー含め「ひらほく新聞」を閲覧・ダウンロード可能です！

発行所 読売センター平塚北部(ひらほく)山本直 〒254-0013 神奈川県平塚市田村9-4-32 電話 0463-54-2807



【雲南元気学校 資料請求】
ご案内と 小冊子No.2
たまちゃん&健ちゃん対談CD
ひらほくよりお届けします！

2015年4月号で筆文字師匠、「たまちゃん」のお話をご紹介しましたが、その小冊子を制作した島根の健ちゃんこと、大島健作さんから昨年未だに新たな小冊子と、心友たまちゃんとの対談CDが届きました。書くことが好きで10年以上コラムを継続、そして『雲南元気学校』という活動を再スタートしたいという健ちゃん。対談では『元気』という意味についてもありました。皆を笑顔に元気にしたいというその本気の思いをご紹介します。

『雲南元気学校』

「元気」とは一般的には、勢いがいいとか、生命力が旺盛である様や気分が上向きという意味合いで使われていますが、その漢字の意味で考えると「元の気」↓「神の気」↓「宇宙の気」、つまり全ての根源であり、万物が「神の元の気」で生かされているという意味に繋がっている。また、「気」のなかのメが本来は「米」で「氣」。「米」の字は、「光が四方八方へ広がっている」ことを表している。現在、大分県で『たまちゃんファーム』を設立、農業も始めたたまちゃん曰く、日本人は二千年以上もお米という作物を大切にこだわって生きてきた。その意味で「米」もエネルギーを持っていて、四方八方へ光を与える、エネルギーを拡散する有難い存在。

「雲南元気学校」は、キヤンパスも教室もなく、基本は学生証、「ココロが元気になる小冊子」と講演会等のCDの配布のみで、2年間で4,440円。全国各地で講演会等の集まりを開催して『元気』で繋がって同志仲間のご縁を広めていきたいと「この年になってやっと自分の志に気付いた」と張り切っています。皆さんぜひ、応援をよろしくお願いいたします。

以下、小冊子No.2から佐古利南先生の講述録より感動の一遍をご紹介します。

死刑囚

島秋人のこと

皆さんは『遺愛集』(東京美術)という詩集を遺した島秋人という死刑囚のことを聞いたことがありますか。刑が執行される前の晩に彼が詠んだ歌が遺されています。

この澄める

こころ在るとは

識らず来て

死刑の明日に

迫る夜温し

明日は刑が執行されるといふのに、独房の中の夜気まで温かく自分を包んでくれると詠んでいます。全く乱れることのない澄み切った心に響きます。私なら心は千々に乱れ、とてもこうした心境にはなれなかったと思います。

その翌朝、つまり刑が執行される日の朝、彼の犯した殺人のために妻を失い、母を失った方たちに心のこもったお詫びの手紙を書きました。そしてまた、お世話になった方々にもお礼の手紙をひとつひとつ丁寧に認めて、全く取り乱すことなく刑を受けたのです。

自分の半生を振り返り、故郷新潟の中学時代の美術教師を想い出します。その先生から「君の絵は構図が良い」と褒められたことがあったからです。それが彼の人生の中で、ただ一度の褒められた経験でした。親からも先生からも、他の大人たちからもそれ以外には褒められたことがないというのですから、彼の孤独な生涯に胸が痛みます。

選者であった歌人の窪田空穂は、「彼の歌を読むと、頭脳の明晰さ、感性の鋭敏さを思わずにはいられない」と高く評価しています。小学校時代に「バカ・低能」呼ばわりされた人に対して、全く相反する評価です。人を評価するのに、今現れている部分だけを見て、その人のことを決めつけてはいけない、あるいは自分自身を「能力のない駄目な奴」と見限ってはならないという大変良い事例だと思えます。

彼の小・中学校時代は悲惨でした。結核によって起るカリエスという骨がもろくなる病気のために体中にギブスをして学校に通っていたのです。その異質な姿が仲間からのいじめの対象となりました。学校の勉強にもついて行かず、「バカ・低能」などと罵られました。小学校の教師からは国語で0点をとったという理由だけで足蹴にされ、それが怖くなり学校を逃げ出したこともあったのです。

彼はその先生にお礼の手紙を書いたところ、直ぐに返信が届きました。その中に先生の奥さんが詠まれた三首の和歌が添えてありました。その歌に惹かれたことがきっかけで彼は和歌の勉強をするようになったのです。

ほめられし

ひとつのこのの

うれしかり

いのち愛しむ

夜のおもいに

これは、独房の中でただ一度の褒められた経験を思い出して、心温かくなって詠んだ詩です。彼はこうして習作を新聞の和歌の欄に次々と投稿するようになりました。やがて美しく清らかで、しかしどこか寂しさを宿す彼の詩は人々の注目を集めるようになります。

もし皆さんの中に、「自分はダメだ」とか「自分には能力がない」と思っている人がいたら、この島秋人のことや宇野さんの言葉を思い出して、「自分はダメだ」とする思い込みから自らを解放して欲しいのです。それが皆さんのいのちを輝かす第一歩となります。

この島秋人の生涯から私たちは多くのことが学べるように思います。

獄中の人となった彼は、

獄中の人となった彼は、

獄中の人となった彼は、

お母さんの

最後のおむすび

鎌田 實

(諏訪中央病院名誉院長)

僕が看取った患者さんに、スキルス胃がんに罹った女性の方がいました。余命3か月と診断され、彼女は諏訪中央病院の緩和ケア病棟にやってきました。

ある日、病室のベランダでお茶を飲みながら話していると、彼女がこう言ったんです。「先生、助からないのはもう分かっています。ですけど、少しでも長生きをさせてください」

彼女はその後、42歳ですからね。そりゃそうだろうなど思いながらも返事に困って、黙ってお茶を飲んでた。すると彼女が、「子供がいる。子供の卒業式まで生きたい。卒業式を母親として見てあげたい」と言うんです。

9月のことでした。彼女はあと3か月、12月くらいまでしか生きられない。でも私は春まで生きて子供の卒業式を見てあげたい。子供のために、という思いが何かを変えたんだと思います。

奇跡は起きました。春まで生きて、卒業式に出席できた。こうしたことは科学的にも立証されていて、例えば希望を持って生きてい

る人のほうが、がんを闘ってくれるナチュラルキラー細胞が活性化するという研究も発表されています。おそらく彼女の場合も、希望が体の中にある見えない3つのシステム、内分泌、自律神経、免疫を活性化させたのではないのでしょうか。

さらに不思議なことが起きました。彼女には2人のお子さんがいます。上の子が高校3年で、下の子が高校2年。せめて上の子の卒業式までは生かしてあげたいと僕たちは思っていました。でも彼女は、余命3か月と言われたから、1年8か月も生きて、2人のお子さんの卒業式を見てあげることができたんです。そして、1か月ほどして亡くなりました。

彼女が亡くなった後、娘さんが僕のところへやってきて、びっくりするような話をしてくれました。僕たち医師は、子供のために生きたいと言っている彼女の気持ちを大事にしようと思いい、彼女の体調が少しくなると外出許可を出していました。

「母は家に帰ってくるたびに、私たちにお弁当を作ってくれました」と娘さんは言いました。彼女が最後の最後に家へ帰った時、もうその時は立つこともできない状態で

す。病院の皆が引き留めたんだけど、どうしても行きたいと。そこで僕は、「じゃあ家に布団を敷いて、家の空気だけ吸ったら戻っていらっしやい」と言って送り出しました。

ところがその日、彼女は家で台所に立ちました。立てるはずのない者が最後の力を振り絞ってお弁当を作るんです。その時のことを娘さんはこのように話してくれました。

「お母さんが最後に作ってくれたお弁当はおむすびでした。そのおむすびを持って、学校に行きました。久しぶりのお弁当が嬉しくて、嬉しくて。昼の時間になって、お弁当を広げて食べようと思ったら、切なくて、切なくて、なかなか手に取る事ができませんでした」

お母さんの人生は40年ちよつと、とても短い命でした。でも、命は長さじゃありません。お母さんはお母さんなりに精いっぱい、必死に生きて、大切なことを子供たちにちゃんとバトナタッチした。

人間は「誰かのために」と思った時に希望が生まれ、その希望を持つことによって免疫力が高まり、生きる力が湧いてくるのではないかと思えます。(『致知』2012年7月号)

心温まる書籍紹介プロゲ『人の心に灯をともし』より今月もご紹介します。

「私」が

どう生きるか、それを

「実践」と呼ぶ

小林正観さんの

心に響く言葉より…

予言者や、よく当たるといわれた人から「大ケガするぞ」「大病するぞ」というような悪しき予言を聞いたときは、まったく信じることがありません。

「それ、起きません」と宣言します。それを言った瞬間から、あなたは祈るようになります。悪しきことが起きないように、潜在意識で祈り始めたのです。

聞いていて楽しくない予言は、正しい情報ではありません。悪魔の側の魂は聖なる側の予言(正しい情報)を読み取ることはできません。というところは、100%当たらない。

逆に、聞いていて心地よく細胞が活性化するような予言をすると、それを聞いた人も、言った人も細胞が活性化します。それを「実践」と言います。自分の口から出る言葉が、相手の細胞が喜ぶようになことを話すように普

段から心にとめておくこと。たとえば自分の子どもに向かかって、「あなたは私の子なのだから、ものすごい天才になるわよ」と話す。それも何気なく話すことです。また、友人に、「今度会うときは、ますます若く美しくなっていますよ」と話す。そうすると、それを聞いた相手は笑顔になり、体の細胞が活性化してその話を受け入れるようになります。

自分の口から出る言葉が、常に相手の細胞が喜ぶようなことだと、そういう人ばかりが集まるので、自分もますます細胞が活性化して若返ります。

世の中を暗い暗いと嘆くより、自ら光って世の中照らそう。暗さを嘆く自分の心を変えて、私自身が明るい状態になる。「私」がどう生きるか、それを「実践」と呼びます。(喜ばれる『講談社』)

悪しき予言をする人は、心の中でそれが成就することを願ってしまふ。「あなたはこのままいくと病気になるよ」と言えば、相手が病気になることを潜在意識の中で願う。なぜなら、自分の予言が当たって欲しいから。

しかし、それは自らの魂を悪魔に売る行為。悪魔はそれを見てほくそ笑む。日頃、冗談のようにして相手に皮肉を言ったり、憎まれ口をきく人も、予言と同じように、相手の気持ちを萎えさせ、細胞をがっかりさせる。

そうではなくて、その逆のこと、相手が喜ぶような言葉、明るくなるような言葉、元気になる言葉を常に発すること。「私」がどう生きるか、それを「実践」と呼ぶ。どんなときも、まわりが喜ぶような言葉を発し続けたい。(by hiro-san)

使えば使うほど、また言いたくなるような幸せなことが起きる『天国言葉』。これまで何度も斎藤一人さんの教え、その大切さをお伝えしてきました。

自分が発する言葉を一番に聞いているのは自分自身。不平不満、愚痴泣き言、悪口文句、心配ごと(地獄言葉)を言っていると、必ずそういう言葉を言ってしまうようなイヤなことが起きます。肩間にシワが寄り、口角が下がり人相も悪くなります。

聞いた人にも大きな影響を及ぼしてしまう「言葉」意識して変えることができます。もし「地獄言葉」を言ってしまったら、『天国言葉』セットを3回言って、打ち消しましょう。(終わり)

皆さんの新年のスタートはいかがでしたか。過去の積み重ねで私たちの「現在」があり、現在の積み重ねで「未来」がつくれます。「過去は変えられないけれど、未来は変えられる」といいますが、過去に起きた事実は確かに変えられませんが、その出来事の捉え方を変えることはできます。どんな出来事にも必ず意味があり、「そのおかげで今がある」と受け取ることができたら、きっと未来の展開もさらに明るく変わることでしょう。

表面でご紹介の健ちゃん は64歳。あの行動力は本当に素晴らしいです。目標の成否以前に、そこに向き合う自分の本気の思いを毎朝自分と約束することはできます。目の前どんな小さなことにも感謝を忘れず、与えられた大切な時間を笑顔で、そして全力で「実践」していきたいでしょう。

最後に昨年一番のご縁の方、おせっかい協会高橋恵会長の言葉をどうぞ。

編集後記

皆さんの新年のスタートはいかがでしたか。過去の積み重ねで私たちの「現在」があり、現在の積み重ねで「未来」がつくれます。「過去は変えられないけれど、未来は変えられる」といいますが、過去に起きた事実は確かに変えられませんが、その出来事の捉え方を変えることはできます。どんな出来事にも必ず意味があり、「そのおかげで今がある」と受け取ることができたら、きっと未来の展開もさらに明るく変わることでしょう。

表面でご紹介の健ちゃん は64歳。あの行動力は本当に素晴らしいです。目標の成否以前に、そこに向き合う自分の本気の思いを毎朝自分と約束することはできます。目の前どんな小さなことにも感謝を忘れず、与えられた大切な時間を笑顔で、そして全力で「実践」していきたいでしょう。

最後に昨年一番のご縁の方、おせっかい協会高橋恵会長の言葉をどうぞ。

